

## 病害虫発生予察注意報 第2号

病害虫名 イネいもち病 (葉いもち)

1 発生予想 イネいもち病 (葉いもち) が多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域 (特に常習発生地、中山間地域)

3 根拠

- (1) AMeDASデータを用いた葉いもち発生予測モデルBLASTAM及びBLASTAM-NAGANOによると、6月21日から22日にかけて北信地方で、6月30日から7月5日にかけて県下各地で、葉いもち感染好適条件が出現している(表3)。
- (2) 6月29日に中条村で葉いもちの発生が確認され、また、7月第1半旬から第3半旬にかけて常習発生地において葉いもちの発生が確認されている(表1)。特に無防除の水田では病勢が急速に進展する傾向がある(表2)。
- (3) 更に7月9日以降、感染好適条件が広域に出現しており(表3)、7月第4半旬以降、葉いもちが急激に拡大する恐れがある。
- (4) 気象庁発表による向こう1ヶ月の予報では、前半の天候は曇りや雨の日が多い見込みで、発病に好適な条件が続くと予想される。

4 防除対策と留意点について

- (1) 水田の見回りを実施し、葉いもち発生を確認したら直ちに防除を行う。特に苗箱剤未施用のほ場や上位葉感染が多いほ場では、防除を徹底する。
- (2) 防除薬剤は長野県農作物病害虫・雑草防除基準に基づいて選定する。降雨が続き、液剤が散布できない場合は、粉剤または粒剤を状況に応じ使い分け、適期防除を心がける。
- (3) 農薬散布にあたっては、周辺作物等への飛散防止に十分注意する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (4) 窒素過多はいもち病の発生を助長するので、多発ほ場では追肥を控える。
- (5) 発生には地域差が見られるため、今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

表1 葉いもちの初発状況

確認日	発生地区	発病株率	確認機関	確認日	発生地区	発病株率	確認機関
6月29日	中条村	0.1%	農事試験場	7月11日	長和町有坂	0.9%	病害虫防除所
7月2日	小布施町	0.1%	農事試験場	7月12日	飯山市瑞穂	0.4%	病害虫防除所
7月11日	上田市室賀	1.0%	病害虫防除所	7月12日	木島平村	0.7%	病害虫防除所

注) 調査: 水田内50m・3畝見歩きによる1000株調査。

表2 いもち病苗箱剤処理の有無による葉いもち進展の推移

調査地点	品種	調査区	調査株数	7月5日		7月13日	
				発病株率	病斑数	発病株率	病斑数
中条村	コシヒカリ	苗箱剤処理	100	0%	0	0.5%	0.5
		無処理	100	1.0%	1.0	30.5%	55.0
小布施町	モリモリモチ	苗箱剤処理	200	0%	0	1.5%	3.0
		無処理	200	0%	0	38.0%	239.0

注) 病斑数は調査株数あたり。調査データは2反復の平均値。農事試験場調査。

表3 AMeDASデータによる葉いもち感染好適条件の判定結果 (平成19年)

地点	佐久市中込	立科町芦田	軽井沢町追分	上田市古里	東御市新張	諏訪市湖岸通り	原村八ッ手	伊那市高遠	辰野町中央	飯島町七久保	飯田市高羽町	飯田市南信濃	阿智村浪合	南木曾町読書	木曾町塩淵高原	木曾町開田	松本市沢村	松本市奈川	塩尻市木曾平沢	安曇野市穂高	大町市大町	白馬村北城	長野市箱清水	信濃市新牧	信濃市柏原	飯山市大東	野沢温泉村豊郷
6/21																						○	●				○
22				○																○		○			△	●	○
23						△																					
24																											
25	△		△	△	△																			△			△
26																											○
27																											
28									○																		
29													○														○
30	●	●														●											
7/1																											
2	●	●	△		○	●	△		●				○		△				○	●	●	△		●		●	●
3												○			△				○	●	●			●		●	●
4		●	△																	●							
5												●												△			○
6																											
7																											
8																											
9		●				●										●											
10			△				△		●	●		○		●	△	●	○			○	●	●					
11	●	○	△	●																○	●	●					●
12	○			●								●	○	●		△					●	○		●	○	●	●
13																											
14			△				△	○	○		●	●	△	●	○	△		△	△								
15																											●
16					○				○							△			○							●	●
17																											
18		△											△						○	○	△			●		●	

●: 好適条件    ○: 準好適条件 (好適条件にやや満たないもの)  
 △: 準好適条件の内、濡れ時間の平均気温または前5日の平均気温が18℃以下  
 ※表中の地点名はAMeDAS観測所の所在地

<葉いもち発生予測モデルBLASTAM及びBLASTAM-NAGANOについて>

いもち病 (カビにより引き起こされるイネの最も重要な病害) の発生を予測するため、AMeDAS (アメダス) データをもとに、温度、葉のぬれ時間等から感染に好適かどうか判断するコンピューターを使ったシステム。  
 いもち病の感染には、気温と葉のぬれ時間の長さに関係する。好適条件とは10時間以上のぬれ時間と、ぬれている間の平均気温が必要温度を満たし (15~25℃でぬれ時間により異なる)、かつ、前5日間の平均気温が20~25℃の場合である。  
 準好適条件とは、ぬれ時間の不足や平均気温の過不足など、好適条件にやや満たない場合のこと。

病害虫防除所 所長 原孝章  
 担当 発生予察課 福本匡志  
 電話 026-248-6471  
 FAX 026-248-1069  
 電子メール bojc@pref.nagano.jp